

事業所職員向け 児童発達支援自己評価表

事業所名：児童発達支援 つばめ療育館

公表日：2025年2月27日

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善点、工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容や改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	2	2	1	・個室が少ないため、個別対応したい課題が重なりとやや不便さがある。 ・運動は、ご利用児の人数や特性に応じてグループ分けで実施している。 ・学校の長期休業日は、隣のスペースの放課後等デイサービスの利用時間帯が重なり共有スペースが限られるため、手狭に感じることがある。活動内容を工夫してプログラムを作成している。	・学校の長期休業日は、ご利用児個々の特性に応じた外出活動を多用する。
	② 職員の配置数は適切であるか	3	1	1	・学校の長期休業日の際は、一時的に職員が応援に入ることがあった。	・学校の長期休業日の際は、放課後等デイサービスに学校の介助員や学生アルバイト等を補充し、児童発達支援の職員体制は維持する。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	5			・玄関にはスロープがあり、室内はバリアフリー化されている。	・現状を維持する。
業務改善	④ 業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	5			・支援後には振り返りを実施し、次回の支援に反映させている。	・現状を維持する。
	⑤ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	5			・保護者からの評価は、真摯に受け止め改善箇所は速やかに対処している。	・現状を維持する。
	⑥ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5			・ホームページで公開している。	・現状を維持する。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3	1	1	・第三者評価は令和元年に実施したのみ。	・かなりの高評価であったため、今後の必要性は感じていない。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	5			・月一回の土曜日出勤時に、適宜研修を行っている。 ・研修の機会が今よりも増えると良い。	・発達支援コンサルタント主催の専門研修は順次受講し、修了者は再受講を行っている。 ・業務に必要な専門研修の受講は、推奨している。受講料や教材費の負担の他、休日の場合は代休扱いとしている。
	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	5			・利用前には、発達支援コンサルタントまたは作業療法士による身体評価を反映させる児童発達支援計画を作成している。 ・保護者のニーズを紙面で提出いただき、児童発達支援計画に反映させている。	・サービスの質は向上し続けるものと捉え、職員の研鑽に努め児童発達支援計画に反映させる。
適切	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4	1		・標準化されたアセスメントツールをベースに、医学的根拠と専門性を重視し発達改善に努めている。	・現状を維持する。
	⑪ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	5			・児童発達支援ガイドラインのみではなく、医学的根拠と専門性を重視し児童発達支援計画の作成に努めている。	・サービスの質は向上し続けるものと捉え、職員の研鑽に努め児童発達支援計画に反映させる。
	⑫ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	5			・児童発達支援計画に従い、日々の振り返りで必要な場合は変更している。 ・目標や支援内容を確認しながら、活動内容を決めている。	・現状を維持する。
	⑬ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	4	1		・職員全員ではないが、過去の評価記録を参考にしながら複数名で立案している。	・サービスの質は向上し続けるものと捉え、チームワーク重視でスキルアップに努める。

な 支 援 の 提 供	⑭	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	5			<ul style="list-style-type: none"> ・前日に話し合っけてプログラムを立てている。 ・保育士が中心となって決める時は固定化しないよう工夫ができています。 ・作業療法士としては、あえて固定化して評価を行うときがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用児個々の状態に応じ、固定化しないよう工夫を続ける。
	⑮	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	5			<ul style="list-style-type: none"> ・支援プログラムの中で、小集団と個別を組み合わせた活動にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団になじめないご利用児は、個別指導が可能な環境設定を行う。
	⑯	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5			<ul style="list-style-type: none"> ・前日に職員の配置等を考え、当日の支援前にも確認している。 ・当日欠席の連絡がほとんど毎日来るため、予定していた支援内容が変更になることもあり、支援前にも必ず打ち合わせをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持する。
	⑰	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	4	1		<ul style="list-style-type: none"> ・時短勤務の職員もいるため、職員全員での振り返りが難しい。 ・職員の時間が空いた時や後日の打ち合わせの時に、気づいた点等を共有するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りに参加できない職員に対しては、口頭やグループウェアを活用して共有を徹底する。
	⑱	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	5			<ul style="list-style-type: none"> ・HUGシステムを導入し、日々の記録は確実に、支援の検証・改善につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必須の記録すべき内容は統一し、必要な場合には付加的な記録を行う。
	⑲	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	5			<ul style="list-style-type: none"> ・6ヶ月毎の見直しの他、日々の振り返りで必要な場合は変更している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な視点で変更が必要な場合は、適宜行うことを徹底する。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5			<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、直接支援を担当する職員が参画している。 ・会議に出席する担当が決まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参画できる職員を増やすため、職員間でスキルアップに努める。
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	5			<ul style="list-style-type: none"> ・適宜保育園や相談員等の関係機関と連絡を取り合い支援している。また、医療機関との連携も行っている。 ・必要時には相談員や保育園と連携して支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員との連携を重視し、各機関との連携を強めていく。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	2	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児の利用なし。(複数回答) 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児利用は在籍していないが在籍した場合は、関係機関と連携した支援を行っている。
	㉓	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	2	3		<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児の受入はない 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児が在籍した場合は、医療機関と連携体制を整えて行く。
	㉔	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	5			<ul style="list-style-type: none"> ・支援情報提供書などを作成し提出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼に応えるだけでなく、積極的な姿勢で情報共有に努める。
	㉕	小学校や特別支援学校(小学部)との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	5			<ul style="list-style-type: none"> ・就学時に支援の情報提供書を作成している。 ・情報提供書の作成や、サービス担当者会議に参加し情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼に応えるだけでなく、積極的な姿勢で情報共有に努める。
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4	1		<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関との連携は取れている。 ・児童発達支援センターや発達障害支援センターとは接点はないが、医療機関との連携は出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に医療機関からの情報提供は重視し、緊急対応に備える。
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3		2	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所として交流する機会がない。 ・行ったことがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用児はそれぞれ登園し他児と関わる事ができているので、必要性を感じない。
	㉘	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	3	2		<ul style="list-style-type: none"> ・「療育支援部会」に作業療法士が参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政からの依頼があれば、積極的に参加する。
	㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5			<ul style="list-style-type: none"> ・HUGマイページを活用し、活動時の様子や家庭での様子を共有するよう心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HUGマイページのみではなく必要な場合は、紙面、メール、電話連絡、対面で共通理解を持つ。
㉚	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	3	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントプログラムとして実施はしていないが、必要に応じて保護者支援(勉強会や対応方法への助言等)を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの質問等には、速やかに専門的視点で事業所の回答を伝える。 	
㉛	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	5			<ul style="list-style-type: none"> ・見学時や利用開始の契約の時に、丁寧に説明を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持する。 	

保護者への説明責任等	⑳	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	5			・「発達障害医学」を根拠に、身体改善→運動課題→個別課題のプログラムを提供し、発達の改善事例を積み重ねている。ガイドラインについては、可能な限り整合性を図っている。	・児童発達支援ガイドラインに加え、医学的な専門性が高い発達支援コンサルタントとの業務契約により得た視点を「児童発達支援計画」に反映させていく。
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	5			・相談があった場合は傾聴し助言を行っている。その場で答えることが難しい相談は、職員間で共有して後日答えるようにしている。	・保護者からの質問等には、速やかに専門的視点で事業所の回答としてお伝えする。
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3	1	1	・就学に向けた情報交換会を開催し、保護者同士で就学に関する情報交換を行う機会を設けている。	・就学までの限られた期間であるため、保護者会というより、ピンポイントの会合を企画する。
	㉓	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5			・計画更新時のモニタリングに加え、適宜保護者からの相談(口頭、連絡帳等)に対し対応している。 ・相談しやすい関係性や雰囲気作りを意識している。	・保護者からの質問等には、速やかに専門的視点で事業所の回答としてお伝えする。
	㉔	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	5			・隔月に「おたより」を発行している。 ・HUGシステムを導入し、保護者のマイページに活動状況等を利用の翌日に発信している。	・現状を維持する。
	㉕	個人情報の取扱いに十分注意しているか	5			・規程に従い、個人情報の取り扱いは十分注意している。 ・採用時や職員研修で適宜強調している。	・特に職員採用時は、個別で指導する。
	㉖	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	5			・ご利用児に対しては、原則視覚を優先し聴覚に繋げて伝達している。	・現状を維持する。
	㉗	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	2	2	・見学希望者には、対応している。 ・発達支援の場面において、地域開放は逆効果になることが懸念される。	・地域住民への開放は、慎重に検討していく。
	非常時等の対応	㉘	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	5			・各種マニュアルを作成し、定期的に訓練を実施している。
㉙		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	5			・計画して行っている。	・年2回、火災や地震を想定した避難訓練を行っていく。
㉚		事前に、予防接種やてんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	5			・保護者を介し、医療機関より情報を提供してもらっている。 ・予防接種については、確認していない。	・どの職員でも対応ができるよう定期的に研修し・職員間で再確認する機会を設けていく。
㉛		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	3		2	・食事提供の場がない。	・日常的な助言のため、事前情報としては有効と捉える。
㉜		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4	1		・事例集を作成しているが、発生時の状況の確認不足や職員間での報告・共有が遅れることもあった。	・定期的に職員間で発生時に必要な確認事項(時間・場所・誰がどのように発生したか)の再確認、原因・対応についての迅速な報告や共有の必要性を確認する機会を設け、常に全員が当事者意識を持てるようにする。
㉝		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	5			・マニュアルを作成し、年1回職員研修を実施し周知に努めている。	・年1回の開催の他、職員採用時には個別で指導する。
㉞	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	5			・対象となるご利用児はいない。 ・利用契約書に具体的義務として記載し、契約時に説明している。 ・クールダウンが必要な時は、状況に応じて別室で対象のご利用児に職員がマンツーマンで対応し、保護者に説明している。	・クールダウンが必要な時は、必ずご利用児を一人にしない体制を取る。	